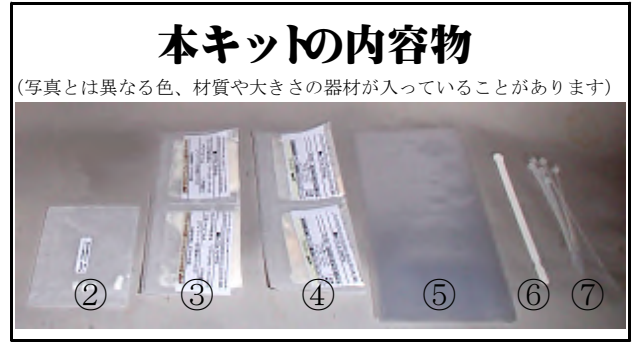


VIPキット you Try neo をお試し頂き、誠にありがとうございます。



**本キット以外に用意する物**：室温水道水150mL、98°C以上の熱湯150mL、植える植物。

適宜 剃刀（メス、ハサミ）、ピンセット、紙皿、目盛り付き計量カップ、計量スプーン（中～大きじ）、スプレーなどがあると便利です。

①紙コップ 200mL 程度のもの × 5～7 同梱されておりません。別途ご用意下さい。

**本キットの内容物**（緑二重線以下および裏面に記した培養操作 2 回分です）

②次亜塩素酸カルシウム粒（有効塩素70%、0.07～0.1g/粒程度）4～6粒

③eVIP培地（**ヴィトロプラント**開発のインスタント滅菌培地のもと150mL分）× 2袋、  
（汎用性の高い1/2MS主要塩類、MS微量元素とビタミン類、pH5.8前後、BA0.1mg/L、NAA0.1mg/L、ショ糖30g/L程度のゲランガム固化培地が150mL作成できます）

④irVIP G（**ヴィトロプラント**開発の置床用除菌剤 約1g）× 2袋、

⑤ポリエチレン袋 × 7（1袋は右記のマドラーと結束タイ入り）、⑥マドラー × 1、⑦結束タイ × 6。

以上の内容を全て確認されましたら、本紙の説明書に従って「どこでも誰でも簡単に」できる植物器内培養をお試しください。

なお操作法などを含め不明点など有りましたら**ヴィトロプラント**までお気軽にご連絡下さい。

長期保存には耐えられませんので、サンプル到着後お早めにお使いください。

どうしても保存したいときはキット全体を乾燥剤と共に容器に密封し冷暗所で保存してください。

破損・欠品・取り違いなどがありましたら、**ヴィトロプラント**まで、送料着払いでお送りください。

（〒607-8442 京都市山科区上野山田4-2 075-606-1861、www.vitroplantslab.com、claim@vitroplantslab.com）

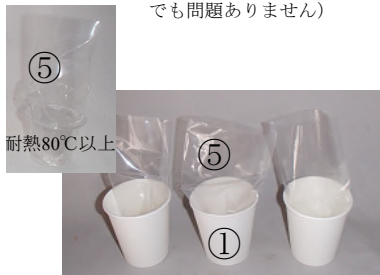
直ちに同等品を返送させていただきます。

ただし、シールされた袋（③、④）を開封・破損・紛失、悪質と見なした場合などは応じかねる場合があります。

### I (培養容器作成) :

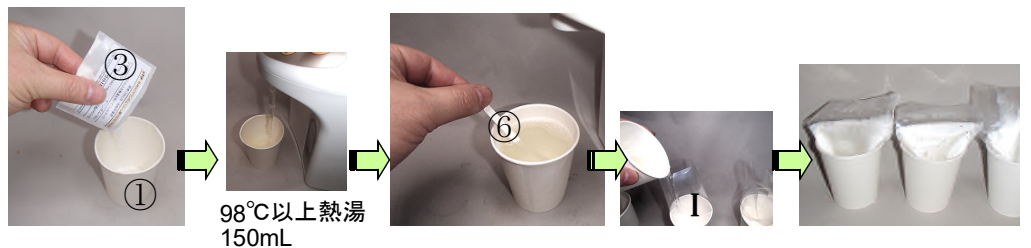
- ①紙コップ3つの内側に
- ⑤のポリエチレン袋を装着します。

（紙コップではなく、耐熱コップなど適当な耐熱80°C以上の容器に、⑤の袋を詰め込んでも問題ありません）



### II (培地作成) :

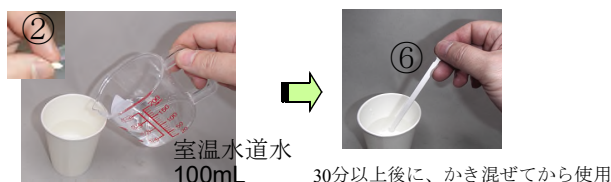
- Iとは別の①紙コップに③eVIP培地の粉末1袋全量を入れます。
- 次に98°C以上の熱湯を150mL（参照写真程度）を注ぎ、  
（冷めないよう紙コップに直接熱湯を投入して下さい。熱湯量は目分量で問題有りません。熱いので注意）
- ⑥マドラーでかき混ぜて完全に溶解します（マドラーは他でも使用します）。
- 直ちにIで作った3つ紙コップのポリエチレン袋の中に培地を50mL程度づつ注ぎます。
- その後、ポリエチレン袋の口を引き延ばし、上端を折って仮封し、冷却固化します。
- 冷却固化すれば袋内と培地が滅菌され、植物を植えることが可能になります。
- （培地作成用に使用し、空になった①紙コップは次のIIIまたはIVに使用して問題有りません）



### III 塩素液 作成

- ①紙コップの1つに、
- ②次亜塩素酸カルシウムを1粒（0.07～0.1g）と水道水をコップ半量程度（100mL）を加えて静置します。粒が完全に崩壊（30分程度）してから、⑥マドラーでよく攪拌します。

（マドラーは他でも使用します）



### IV irVIP G液 作成

入れる植物によっては使わない場合もあります。作業前に裏面Vをお読みください

- ①紙コップの1つに、④irVIP Gを1袋と水道水を中～大きじ1杯（10～15mL）を加えて静置します。
- 裏面の後行程での**使用直前**に⑥マドラーでよく攪拌します。
- なお、irVIP Gは水溶しません。黄白濁した水和液です。

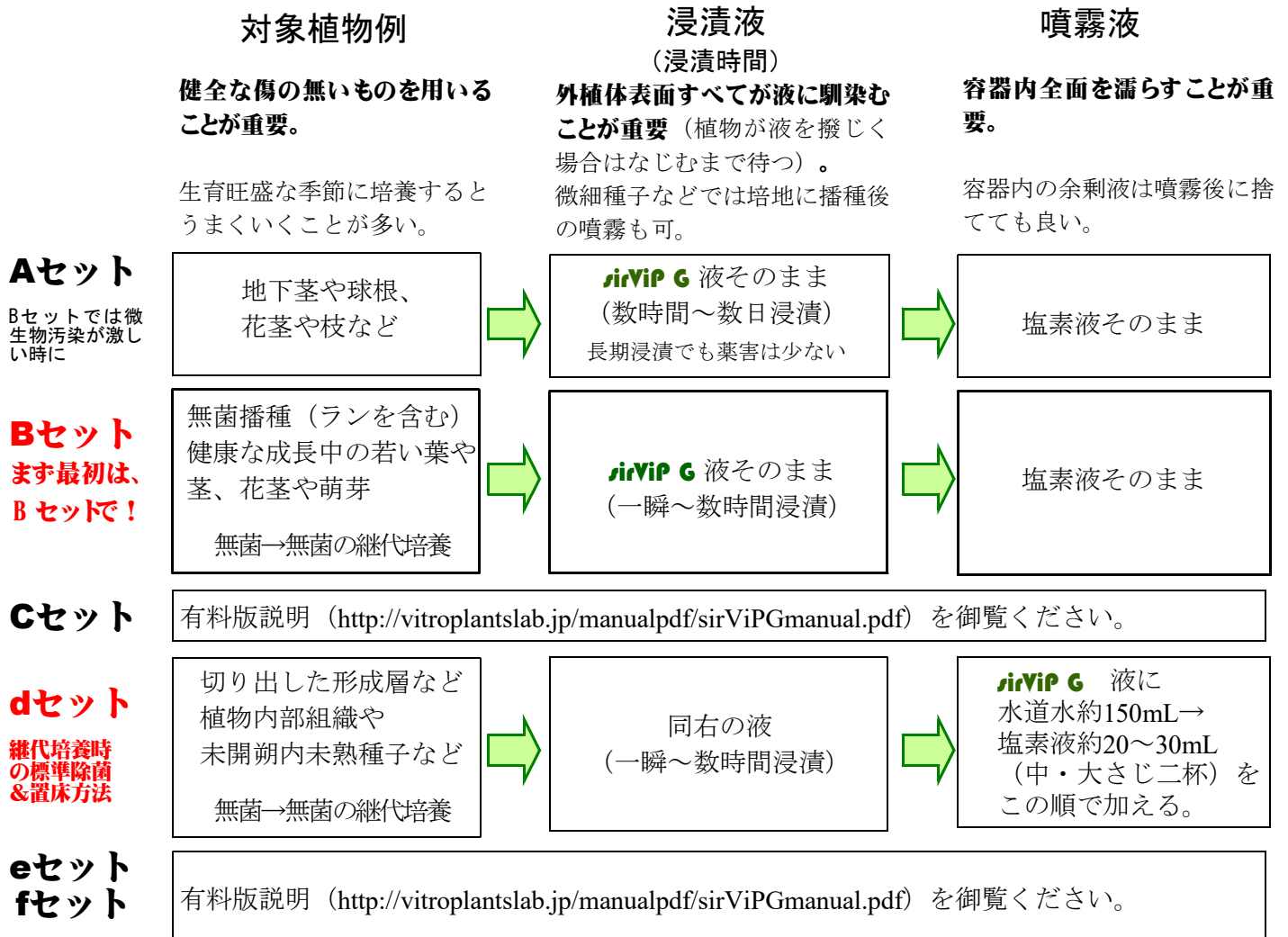


使用直前にかき混ぜる

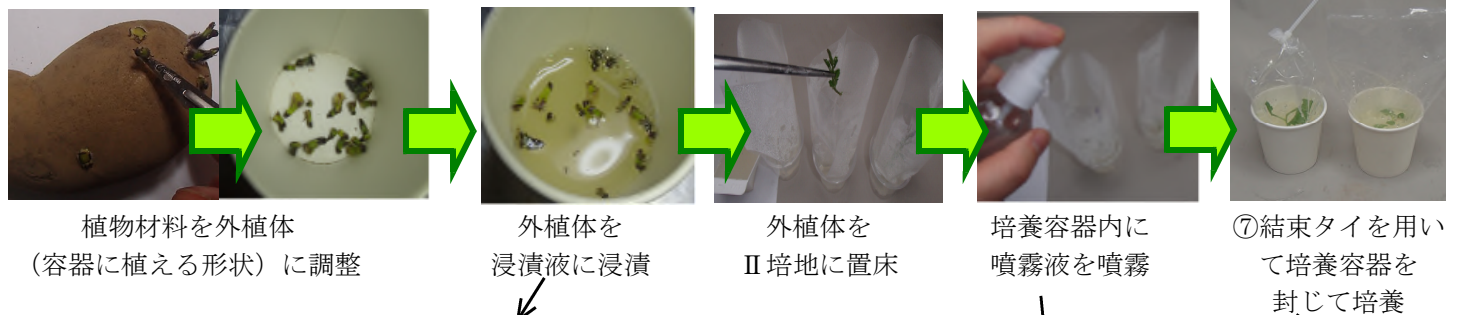
裏面に続く（外植体除菌・置床）

裏面（外植体除菌・置床操作 まず最初に表面『vipキット you Try neo の使用法』のIから開始して下さい）

V 植えられる植物に合わせた浸漬液と噴霧液を作成します（よくわからない場合は「Bセット」をお選びください）。



VI Vで作成した浸漬液と噴霧液を使用して、培地に植物を植えます。



**浸漬液への外植体浸漬は、外植体表面すべてが濡れるようにして下さい。** 外植体が水をはじく場合は、しばらく待たば馴染みますので、その後にかき混ぜるなどして濡らして下さい。なお、外植体全体が浸漬液に浸かっている必要はありません（長時間浸漬の場合でも。乾燥は厳禁：薬害）。

**無菌播種をする場合は、浸漬液に浸漬前に別途、休眠打破などの必要があることがあります。**  
例：コチョウランやデンドロビウムの完熟種子：  
次亜塩素酸ナトリウム（ハイターやアンチホルミンの5～10倍液）で 10分ほどの浸漬（未熟種子ではやってはいけない）。  
ジベレリン浸漬や超音波洗浄、種皮の機械的な傷付け、高濃度の塩水中での貯蔵、流水さらしなどが有効なものもあります。

熱シーラーがあれば、熱シール封の方がより良い

**スプレーがない場合は、噴霧液で培養器中を濡らす**  
II培養容器（ポリエチレン袋）内に噴霧液を数十mL注ぐ。  
培地が落ちないように袋の外から指で押さえて溶液を捨てる。

VII 培養器を直射日光の当たらない、明るい窓際などで培養します。